

イタリア発、
福島の子どもたちの元気と夢を育む
プロジェクト 2024

活動報告書

社会貢献事業振興団体 (Non profit)
オルト・デイ・ソーニ

— 自然との共生、心身を育む食、視野を広げる体験を大切にする子ども教育支援 —

登録番号 97604550158

Via Milazzo, 10 – 20121 Milano

www.ortodeisogni.org – info@ortodeisogni.org



orto dei sogni

REPORT 2024

目次

代表の挨拶-活動終了のお知らせ、ご支援へのお礼	1
概要と沿革	2
過去の転地保養のアクティビティ紹介	3
オルトキッズの声・引率ボランティアの声	5
オルトキッズご家族の声	6
ヴェネツィア『カ・フォスカリ』大学ボランティアの声	7
2024年度転地保養プログラムの	
「カーサ・オルト - イタリアのみんなの家」概要	8
オルトキッズたち 2012～2024年	10

オルト・デイ・ソーニは、東日本大震災と福島原発事故の後「イタリアが、日本のためにできること」として、福島の子どもたちの心身の健康を守るためのイタリア転地保養活動を、14年にわたり続けてきてまいりました。

2025年2月、誠に遺憾ながら、協会としての活動を終了することを臨時総会にて決定いたしました。

これまでご支援いただいた皆さまには、心よりお礼申し上げます。

2023年および2024年は、福島第一原発に隣接する、強制避難区域であった地域から子どもたちを招待しました。

この2年間の経験から、医学や心理学における専門知識と経験を持ち合わせていない私たちが、ボランティアとして今後安全に保養を遂行していくことには限界があるとの判断を下しました。

私たち自身としては、これまでに活動停止を考えたことがなく、遺憾かつ辛い決断です。10回にわたるイタリア保養を、多くのご支援者ご協力者の方々とともに実現できましたことを大切に胸に刻み、今後はひとりひとりが個人としてできることを考えていけたらと思います。

多くの皆様からのご支援のおかげで、140人にのぼる子どもたちに、未来への糧となるイタリアでの健やかな夏の共同生活の機会を届けられたことに、心より感謝いたします。

特に、2014年以降はベネツィア「カ・フォスカリ」大学との提携、また活動後半は、福島の「認定NPOいわき市民測定室たらちね」のみなさまとパートナーシップを組めたことで、活動を安定させることができました。

この14年間、子どもたちと過ごした時間から私たちは多くを学びました。また自然に触れ合うこと、優しい心に接することで、子どもたちの笑顔が輝く様子、心身が逞しく成長する様、困難を乗り越えていく姿を間近で実感することができました。

子どもたちのために休暇を使って参加してくれた、たくさんのイタリア人の若いボランティアたち、日本からの引率者の方々にも、改めて心からのお礼を申し上げます。彼らの深い愛情と、24時間体制で献身的に子どもに寄り添う姿勢があつてこそ、毎年の転地保養プログラムがさらに温かく充実したものとなりました。

最後に、いかなる時も一緒に前を向いてここまで歩み続けてきたオルトの仲間たちに、心から感謝の意を表したいと思います。

オルト・デイ・ソーニ代表 小林もりみ



オルト・デイ・ソーニ

—自然との共生、心身を育む食、視野を広げる体験を大切にする子ども教育支援—

「夢を育む小さな畑」を意味するオルト・デイ・ソーニは、ボランティアスタッフのみによって構成される非営利協会です。2011年3月11日の東日本大震災後、イタリア在住の日本人および日本を愛するイタリア人によって設立されました。「被災地の子どもたちのためにイタリアからできることは何か?」という問いを原点に、福島の子どもの心身の健康とグローバルな成長を応援するため、2012年夏より、イタリアでの1ヶ月間におよぶ転地保養プログラム「カーサ・オルト - イタリアのみんなの家」を実施してきました。

イタリア国内外の各団体・企業や個人の方々からお寄せいただいたご寄附は、協会設立から13年間で合計367,103.57ユーロ。これまで10回におよぶ転地保養の参加者はのべ142名で、参加者全員（一名を除く）に健康診断（小児科医の診察、血液検査、甲状腺エコー）と尿内セシウム濃度測定を提供し、検査結果は、その後の子どもたちの健康管理の目安に活用できるよう、データと診断書ともに保護者に報告してきました。

代表 小林もりみ

所在地 イタリア・ミラノ

Via Milazzo 10, 20121 Milan, Italy

e-mail. info@ortodeisogni.org

web. www.ortodeisogni.org

2011年10月 設立

2012年 サルデーニャ州オリスターノ県にてイタリア転地保養開始

2013年 在東京認定NPO「ピースプロジェクト」との公式パートナーシップ締結

2015年 ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学とのインターンシップ制度 提携開始

2016年 ドキュメンタリー映画『小さき声のカノンー選択する人々』（鎌仲ひとみ監督）
イタリア上映開始
上映会開催地:ミラノ市ミラノ市アーバンセンター、ヴェネツィア「カ・フォスカリ」大学、
トリノ大学、トリノ日本人学校など

2016年 サルデーニャ州カルボニア・イグレスィアス県ドムスノヴァス市にて転地保養

2017年 イタリア転地保養開催地をリグーリア州サヴォーナ県「休暇の家」（ミラノ市運営）に変更

2019年 認定NPO法人「いわき放射能市民測定室たちね」との公式パートナーシップ締結

2020年 非営利活動団体セクター 社会貢献事業振興団体（APS-ETS）登録

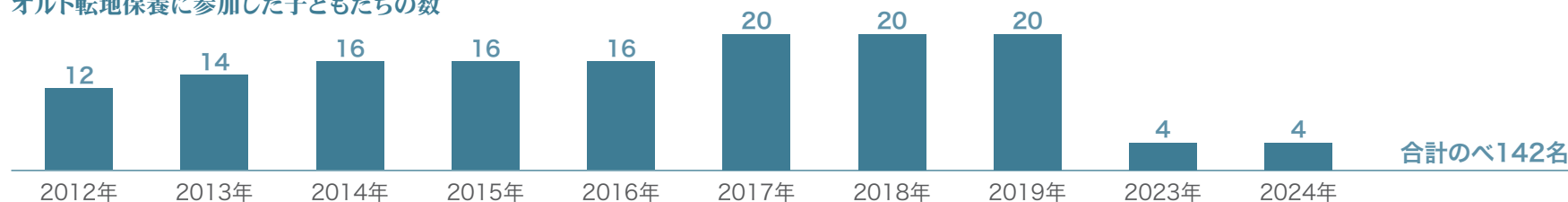
2021年 「オルト元気プログラム」開始

2022年 ポスト・コロナの保養再開に向けて始動
対象は、原発事故後に帰還困難区域とされたのち、現在、避難指示が解除された地域、
または今後解除される予定の地域に居住する子どもたち

2023年 マルケ州メルカテッロ・スル・メタウロ市にてイタリア転地保養を再開

2024年 リグーリア州サヴォーナ県「休暇の家」にて転地保養
認定NPO法人「いわき放射能市民測定室たちね」との共同主催

オルト転地保養に参加した子どもたちの数



1か月のステイ中は、地元の方々の協力のもと、オルトが大切にしている3つの軸を中心にした生活および活動を行ってきました。

「カーサオルトー イタリアのみんなの家」の3つの軸

NATURE
自然

放射能の不安がない
自然と触れあう
子どもらしく過す

FOOD
豊かな食

旬の食材を用いた手料理を頂く
みんなで食卓を開く幸せ

GLOBAL
GROWTH
異文化交流

多様な文化や価値観に触れる
個性を大切する
仲間と協力、尊重しあう

自然

CASA ORTO

異文化に触れ
視野を広げる

豊かな食





高村諒さん

2013年 小学5年生で参加

小学校5年生の時にイタリアで過ごした1ヶ月間は、私の中の原点になりました。燦々と照りつける太陽、綺麗な海、歴史ある街並み、どれもきらきらと輝いて見えていました。自分の目で、肌で感じたサルデーニャの景色は一生忘れることはありません。また普段体験できない乗馬や、ピザ・パスタ作り、現地の子とのサッカー、全てが原点であり、今の私を形作っています。そんな経験を幼い時にしたおかげで、今私はJICA海外青年協力隊としてインドネシアに行きます。オルトがあったからこそ今がある、そのことを忘れずにインドネシアでも頑張りたいと思います。Terima kasih banyak!!!!

鈴木大悟さん

2012年 小学3年生で参加

2023年 引率ボランティアとして1ヶ月参加

自由と自然の中をありのままに生きる、子供たちにとっての大切な瞬間と共に過ごした思い出は一生の宝物です。この活動から影響を受け将来へ進むオルトキッズはたくさんいると思います。僕自身そんな素晴らしい活動に、保養する側、される側として参加させてもらい、多くの事を学びました。オルトの皆様には本当に感謝しています。オルトキッズの1人として、これからも夢に向かって努力を続けていきたいです。

外崎恵子さん

2018年 子どもたち20人を引率

子どもたちと暮らしも含めてたっぷり過ごすことも、イタリアでの生活も、何もかもが初めてでした。私の人生にとって大事な転機でもあり、感情を日々味わい、とても豊かな時間でした。貴重な機会を本当にありがとうございました。

樋口茂寛さん

2024年 子どもたち4人を引率

長年の念願叶っての参加でしたが、日頃子どもと触れ合う機会も少ない中どこまでやれるか不安もありました。実際始まると、大人子ども関係なく参加者それぞれが自らの人間性を100%発揮しながら全力で生き抜く毎日で、笑いあり涙あり、あっという間に終わってしまいました。あの夏の照りつける太陽と1日3回着替えるほどの暑さは一生忘れません。この度は貴重な機会をいただき心から感謝致します。

橋本美津子さん

息子がオルトの転地保養に参加させて頂いたのは今から9年前、小学校3年生のことでした。一ヶ月間、生まれて初めて親元を離れ、福島での放射線を気にすることなく、サルデーニャの美しい自然と愛情溢れる地元の大学生やスタッフと過ごすことが出来ました。活発で大変手がかかる息子ですが、親身に寄り添って頂き、日本に帰ってきた時は「イタリアに戻りたい!」と泣いていたほど、毎日を楽しく過ごしていたのを今でも覚えています。また、転地保養終了以降も息子のことを気にかけてくださっていることもありがたく思っております。一生の思い出をありがとうございました。心から感謝しております。

安倍千恵さん

2015年オルト転地保養に参加させて頂きありがとうございました。震災後、地震と津波の恐怖で留守番さえもできなかった裕次郎が、パンフレットを学校から持ち帰り、これに参加したい!と言う言葉に私も家族も驚きましたが、裕次郎の強い意思があったので面接をし、面接でも質問の答えにも、とにかく行きたい、絶対に行きたいと…面接時に提出する作文の原稿用紙にも、2枚目には行きたい行きたい行きたい…お願いします。とその言葉だけが書いてありました。

初めての長期一ヵ月外泊、海外…不安や心配も沢山ありました。ですが…そんな心配はまったくなく、のびのびと野生の猿に戻って生活させて頂きました。当時の福島は、放射線の影響により外遊びも時間規制があり、体育の授業は体育館のみ。プールと海はもちろん禁止。飲食物も産地を選び、水道水も禁止。海のすぐ傍で育った裕次郎にはかなり息苦しさをを感じる生活でした。とにかく外遊びが大好きだったのに外で遊ばせてあげられないことが親としても辛い毎日でした。サルデーニャは、夜まで明るくずっと外で遊べて果物や野菜や魚採れたての食材が食べれてまさしく本来の野生児に戻ってました。送られて来る写真は最高の笑顔の裕次郎ばかりで、行かせてよかった。

寂しさといろいろな意味の涙を流して帰りを待ちわびてました。ビデオ電話をくれた日も、みんな優しくて、毎日楽しい!バナナがめちゃくちゃ美味い!宿題は全然やってない(笑)もお、サルデーニャに住むから帰らなくていい?と言う内容でした。親元から離れてあんなに楽しんでいる裕次郎は、初めてでした。

スタッフの皆様、一緒に参加したオルトの仲間と家族同然に過ごし、最高の環境で1ヵ月を過ごせたことは一生の宝物になりました。帰りの空港では、このままサルデーニャにまた戻る!!と1番最後までスタッフの皆様から離れずに居ました。大人になってから絶対にサルデーニャに行きたい!といつも言っていました。あるとき…サルデーニャに行くのは、あの時一緒に過ごした皆なで行きたいなとも言っていました。裕次郎にとったら心の底から家族以上の存在のオルトファミリーだったのだと思います。

そんな裕次郎の体験を聞き、次の年、また次の年と参加したい子たちが増え面接をし、この子たちにとっても一生の宝物を頂きました。こんな素晴らしい転地保養を経験させて頂き感謝しかありません。そんな野生児の裕次郎も20歳になります。大人になりました。

あれから10年経った今でも、協会みなさんが裕次郎の成長を楽しみて頂いてることも嬉しく思ってます。私にとってもこのような体験させてあげれたことは1番の宝物になってます。ありがとうございました。これからも大人になった裕次郎をよろしくお願い致します。

ガブリエレ・モリッジ

2019年 ヴェネツィア大学カ・フォスカリ在学中に1ヶ月参加

2024年 社会人になって休暇を使って2週間ボランティア

転地保養に2回ボランティアとして参加した経験は、どちらもとても濃厚で心身ともに疲れるものでしたが、人間的な成長という視点ではとても有意義なものでした。子どもたちの幸せそうな顔、疲れていても意志にあふれたボランティアの姿など、一生携えてゆきたい忘れがたい思い出です。昨年の転地保養は、参加した子どもたちの人数がずっと少なかったにもかかわらず、身体的にも感情的にも難しく、その分やりがいも感じました。

この体験を通じて、2011年の福島原発事故のさまざまな影響について色々と考えるようになりました。放射線の問題とともに深く根差した社会問題もあり、子どもたちが心理的に重大な問題を抱える原因となると感じました。私たちボランティアも、そのような困難に直面した際、自分たちの無力さを痛感しました。このような状況では、ボランティア同士の協力と相互信頼が特に重要でした。たがいに支え合い、子どもたちの午後の海遊びや屋外でのちょっとした遊びの時間を楽しんでもらえるように精一杯頑張りました。

この先、再び機会があるとすれば、私は「オルト・デイ・ソーニ」の転地保養にまたきっと参加すると思います。なぜなら、現在の私を形成する経験のひとつであり、そこで得られる経験すべてに価値があると実感しているからです。

協会として活動を終了するという知らせを聞き、とても残念でした。しかしながら、一方でその理由も理解できます。この決断を下したメンバーそれぞれが、転地保養実現のために最大限の努力をし、すべての可能性を検討した上でこの結論に至ったのだと思います。尊厳ある正直な選択であり、単なる願いから進み続けることに固執しなかった、勇気ある決断だと思います。

協会メンバーには、協会の活動終了に意識を向けるのではなく、これまでの活動で成し遂げたあらゆる善きこと、子どもたちが受け取った素晴らしい贈り物に目を向けてほしいと願っています。それは、彼らの一生の宝物なのですから。

メリータ・ダゴスティニ

2019年 ヴェネツィア大学カ・フォスカリ在学中に1ヶ月参加

2019年にこのプロジェクトについて知ったとき、私の人生がどれほど変わるか想像もしていませんでした。「オルト・デイ・ソーニ」でボランティアとして参加することは、私の人生経験の中で最も素晴らしい体験の一つです。

日本とイタリアの子どもたちが、笑顔や遊び、愛情の表現を通じて言語や文化の壁を乗り越えるのを目の当たりにしました。数週間の共同生活の中で、彼らはより大きな世界を発見し、自分たちの意識が広がり、新たな視点を得ました。友情は言葉を超えるものであり、多様性は豊かさであることを学びました。

ボランティアである私たちにとっても、成長の旅でした。これらの子どもたちに出会い、彼らの物語に耳を傾け、困難をしなやかに乗り越えてゆく彼らの力を実感することすることで、想像をはるかに超えることを学びました。

特に印象深いのは、彼らが日本に帰国して、大きくなり「オルト・デイ・ソーニ」での経験に刺激を受けて、人生の道を選んだことを知ることです。ですから、このプロジェクトは、ただ楽しい瞬間を提供しただけでなく、子どもたちの成長への道をともに歩むということを意味するのです。

「オルト・デイ・ソーニ」は14年の歩みを終えますが、その影響は体験した人々の心に生き続けます。そして、私はこの素晴らしい冒険の中で、すべての笑顔、すべての視線、すべての感情をずっと心に留めたいと思います。

プログラムの目的: 子どもたちの体内の放射能を排出し、心身の健康の維持と免疫力の向上、人間的な成長の促進を支援すること。1986年より数多くのチェルノブイリの子どもたちを転地保養のために受け入れ続けてきたイタリアが実証した「1ヶ月の転地保養の効果」に習い、福島原発事故により家族が被災、原発に隣接した元帰還困難区域に住んでいる子どもたちのための約1ヶ月の転地保養を実施。限られた期間に最大限の保養効果を目指す。海外生活を経験したことのない日本の子どもたちに意思の疎通に困らない環境下で、海外ならではの刺激を積極的に受け、子どもが子どもらしく時を過ごすことのできる機会を提供する。

日程: 2024年7月20日～8月19日(日本到着20日)

滞在先: イタリア、リグーリア州、ピエトラ・リグレ市 ミラノ市運営『休暇の家』

参加者: 4名

- 募集と選考の基準:**
1. 元期間困難地域で現在は避難指示が解除された地域(双葉町、浪江町、大熊町、楡葉町、富岡町、広野町、葛尾村、飯館村)内に居住する、または過去住んでいた子どもたちのうち、2024年4月2日時点で8歳～12歳までの小学生であること
 2. 本プログラム「カーサ・オルト - イタリアのみんなの家」の内容に賛同し、子どもの心身の健康を守りたいと考える家庭の子ども
 3. 保養の意義に基づき、子どもたちの健康促進を長期的に応援する目的のため、15歳になるまで継続して医療検査を受けることに同意していること

選考方法: 書類、親子面談、作文による審査

参加費用: 無料。ただし成田空港までの往復交通費を含む日本国内における諸費用は自己負担

医療対応: 保養開始前の健康診断(甲状腺エコー検査、血液検査等)
検査機関: たらちねクリニック(放射能市民測定室 たらちね)
尿中放射性物質濃度測定: 保養開始前と保養終了後
検査機関: 新宿代々木市民測定所



リグーリア州はイタリア本土の北西に位置し、海岸に沿って東西に広がる。南はリグーリア海に面し、北にはアルプスを控える自然豊かな土地。人口約158万弱、総面積約5400km²。

支援団体:			ご協力		日本の公式パートナー	スペシャルサンクス
						
Hope and Love	PayPal Giving Fund	シリコンバレー・コミュニティ財団	ミラノ市	休暇の家 ミラノ市	認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね	無為自然 合気道道場

保養期間中のアクティビティ:

オルト・デイ・ソーニの活動の3つのテーマ「自然」、「豊かな食」、「異文化に触れ視野を広げる」にもとづき、滞在地特有の文化や伝統を反映させながら各種のアクティビティを構成します。2024年度はミラノ市主催の「休暇の家」サマーキャンププログラムに参加しましたが、イタリア人の子どもたちやスタッフたちと日々の共同生活を送る中で、オルト・デイ・ソーニが提案する日本文化に根ざしたワークショップや遊びを加えることにより、さらなる国際交流を図ることができました。

通常のアクティビティ

- ・海水浴
- ・団体スポーツ: ドッジボール、バレーボール、フットサル
- ・異文化交流ワークショップ: 書道、折紙、合気道
- ・夕方のレクリエーション: ダンス、歌、ゲームなど
- ・宿題と絵日記
- ・日本の家族とのLINEビデオチャット(毎週日曜日)

課外プログラム

- ・遠足 - ジェノバ市街と水族館など

転地保養の効果:

尿検査結果:

保養開始直前と保養終了直後に一人2リットルの尿を集めてセシウム濃度を測定しました。

4人中全員からセシウム137が検出されました。

全員が保養後には減少、1人はND(検出限界以下)になりました。

(例)		保養開始時	保養終了後
検体 1番	セシウム 137	0.051Bq/kg (+24%)	→ < ND(検出限界:0.035Bq/Kg)
検体 3番	セシウム 137	0.120Bq/kg (+10%)	→ < 0.079Bq/kg (+13%)

文部科学省ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー
(平成4年版)に準拠した定量分析検出機器:BSI社 GCD70-200

検査機関:新宿代々木市民測定所

測定時間:72000秒

試料容器: 2L マリネリ容器

試料重量:2000.0 g





2012年



2013年



2014年



2015年



2016年



2018年



2017年



2019年



2024年



2023年



orto dei sogni

2011-2024

THANK YOU FOR YOUR KIND SUPPORT!!!

13年間の温かいご支援、本当に有難うございました